

奈良県宇陀市 「地域連携サポートプラン」

提 案 書



平成 29 年 4 月

**国土交通省
近畿運輸局
近畿運輸局奈良運輸支局**

奈良県宇陀市の概要、公共交通に関する主な取組

市の概要

- H18年1月1日に大宇陀町、菟田野町、榛原町、室生村が合併して誕生。
- 奈良県の北東部に位置し、東は三重県名張市に接している。近鉄大阪線によって、京都・大阪方面や名古屋・伊勢方面と結ばれており、大阪方面からの自動車によるアクセスは、最寄りのICである名阪国道針ICと大阪・松原JCT（西名阪自動車道）とが約1時間の距離にある。
- 大和高原とよばれる高原地帯に位置しており、一定の平野部を有しているものの、山間部にも集落等が点在している。土地利用の状況は、山林が全体の72%を占めており、宅地は4%弱に過ぎない。
- 総人口はH7年度の42,035人をピークに減少し、H28年度は32,289人、高齢化は36%となっている。
- 古事記や日本書紀の時代から歴史の舞台となっており、室生寺など多くの歴史文化資源を有している。

奈良県宇陀市
●人口：32千人
●面積：248km²



ウッピー



ハッピー



公共交通に関する主な取組み

◆基本方針・計画・体制

H19	宇陀市有償運送運営協議会 設置 宇陀市地域公共交通活性化再生協議会 設置	H23	奈良県地域交通改善協議会 参加
H22	宇陀市地域公共交通総合連携計画 策定（5年） 宇陀市地域公共交通総合事業計画 策定（5年）	H27	宇陀市地域公共交通網形成計画 策定（5年）
		H28	宇陀地域公共交通活性化協議会 設置

◆取組み

H18	市営有償バス（榛原大野線）運行 ※奈良交通路線バスの廃止代替
H19	市営有償バス（室生北部線・南部線）運行 ※奈良交通路線バスの廃止代替
H21	市営有償バス（室生北部線・南部線）廃止 ※デマンド型乗合いタクシーへ移行
H22	デマンド型乗合いタクシー実証運行
H24	デマンド型乗合いタクシー本格運行
H27	市内の小学生を対象とした「バスの乗り方・安全教室」を開催（現在も継続実施）
	地域公共交通セミナーの開催（現在も継続実施）
	地域公共交通で巡る宇陀路探訪ガイド作成



市営有償バス



地域公共交通セミナー



バスの乗り方・安全教室



宇陀路探訪ガイド

奈良県宇陀市における地域公共交通の現状と課題

公共交通の現状と課題

- 市内の公共交通網は、鉄道(近鉄大阪線)-3駅、奈良交通(株)路線バス-8路線、市営有償バス-2路線、公共交通空白地有償運送事業-1路線、コミュニティバス-1路線、デマンド型乗合タクシー(室生地域で区域運行)により形成。
- 市内の公共交通の利用者数は減少傾向。
- H27年度から奈良交通(株)路線バスへの運行費補助金等が急激に増加。
【H26】5,396千円 【H27】33,912千円 【H28】31,139千円(見込)
- 宇陀市、曾爾村及び御杖村の3市村にまたがって運行する奥宇陀線は、奈良交通(株)が市内で運行する路線バスの中で最も収支率が低く、関係する曾爾村と御杖村とともに宇陀地域公共交通活性化協議会を設立し、運行の効率化について検討中。
- 平成29年度は、平成27年4月に作成した地域公共交通網形成計画(計画期間5年)の中間見直し年度となっており、計画事業のうち未着手となっている「スクールバス混乗」「宇陀市健康通勤プロジェクト」「来訪者向けサービスの充実」などの着手に向けた検討が必要。
- 朝(1便)・夕(2~3便)に運行しているスクールバスについては、一般客の混乗化により、現在公共交通空白地域となっているエリアの一部解消を図ることを検討中。

◆公共交通利用者数

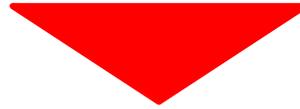
(単位:人)	24年度	25年度	26年度	27年度	備考
奈良交通バス	727,939	693,542	657,574	642,571	奈良交通
市営有償バス	5,844	5,869	5,892	6,809	宇陀市
空白地有償バス	690	674	729	1,004	社会福祉協議会
コミュニティバス(4条)	8,257	7,416	7,446	7,064	深山運送
デマンド型乗合タクシー(4条)	4,905	4,146	4,099	4,319	奈良近鉄タクシー



課題

- ① 運行費補助金が急激に増大する路線バスの運行効率化(奥宇陀線の見直し)
- ② 地域公共交通網形成計画に位置づけられた事業のうち未着手事業への対応
「スクールバス混乗」「宇陀市健康通勤プロジェクト」「来訪者向けサービスの充実」

① 運行費補助金が急激に増大する路線バスの運行効率化 (奥宇陀線の見直し)



○奥宇陀線の確保・維持

- ・ 民間路線としての維持に課題を抱える奈良交通奥宇陀線については、関係3市村(宇陀市、曽爾村、御杖村)連携のコミバス転換等、地域住民や来訪者の移動手段の確保・維持に取り組むことが重要。
- ・ 奥宇陀線の確保・維持のためには、利用促進などの収支改善策が必要であり、例えば社会的懸案となっている高齢運転者の免許返納の取り組みの推進による利用転換、上限運賃の導入、通学利用が見込めるダイヤ設定等自家用車での送迎から公共交通利用への転換、ハイキングなど域外利用者の観光需要の創出などの検討を行い、様々な取り組みを組み合わせながら利用促進を図ることが重要。
- ・ 更に、貨物運送事業者と連携した貨客混載に取り組むことも収支改善の一助になるものと考えられるため、奈良県の補助事業の活用等により実証実験を行うことも検討されたい。

② 地域公共交通網形成計画に位置づけられた事業のうち 未着手事業への対応



○スクールバス車両の有効活用(一般客の混乗、昼間時の運行等)の検討・推進

- ・ 市内で相当数保有・運行されているスクールバスの一般混乗を図ることで、交通空白地の解消や実質増便による利便性向上を図ることが有効。
- ・ 地域住民や保護者の地域公共交通に対する理解が必要。そのために、教育委員会と交通担当との相互理解を深めると同時に、地域への丁寧な説明を行うことが重要。
- ・ スクールバスの活用については、以下のとおりの取扱いであるので参考としていただきたい。

へき地児童生徒援助費等補助金により整備したスクールバスであっても、文部科学大臣の承認を得れば通学以外の目的での運行や便乗が可能。

通学以外の目的での運行や便乗をしている場合でも、児童や生徒の登下校に支障がない限り、スクールバスの運行費については普通交付税措置が行われる。

○宇陀市健康通勤プロジェクトの推進

- ・ 地域公共交通の確保維持には、市民や市内事業所通勤者がマイカー利用から自主的な転換を促す施策が重要。
- ・ 市民や市内事業所に転換を呼びかけるには、市役所等行政職員が先頭に立って地域公共交通の確保・維持に取り組むことが重要。通勤だけでなく、本庁舎から支所などの出張や外勤の公共交通利用を促進することも考えられる。
- ・ 公共交通の利用が可能な職員への働きかけなど、可能なところから取り組みを検討されてはどうか。

○来訪者(外国人含む)向けサービスの充実

- ・ 来訪者向けサービスを充実させるために、駅等交通結節点での情報案内の充実、Wi-Fi環境の整備、情報ポータルサイト等情報発信などの取り組みが必要であり、コンテンツサービス提供会社の活用によるバスロケーションシステムや、地域情報等を組み合わせた路線検索サービスの提供、観光モデルコースの提案などの来訪者向けサービス構築に取り組むことも有効。そのために、交通担当と観光担当の密接な連携を図ることが重要。
- ・ これらの取り組みについては、観光拠点の整備と、訪日外国人向け多言語化対応等と同時に進めることで、国の支援制度である「訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業費補助金」等の制度を活用することも可能。

協定締結から提案に至るまでの間の成果

○平成28年10月6日

- ・ 地域連携サポートプランの協定を締結

○平成29年1月27日、2月6日、3月2日

- ・ 奥宇陀線利用状況についての現状把握のための関係市村、運行事業者、バス乗務員からの聞き取り、意見交換を実施。
- ・ 連携コミバスへ転換する事務局案作成について関係者同意。

○平成29年2月8日

- ・ スクールバス活用について、奈良県、奈良県教育委員会等と連絡をとり、運用方法を明確化。

○平成29年3月23日

- ・ 宇陀地域公共交通活性化協議会にて、奥宇陀線連携コミバス運行の方向性について関係者間で基本合意。

○平成29年4月21日

- ・ 運輸支局が貨客混載の法令上の取扱い等について、奈良県、宇陀地域公共交通活性化協議会、旅客運送事業者、貨物運送事業者に対し説明会を開催。実証事業実施に向けて環境整備。

